



学校だより

令和7年 6月1日

東京都立村山特別支援学校

校長 阿部 智子

〒208-0012

武蔵村山市緑が丘 1460 番地 1

電話：042-564-2781

「仮設校舎での2年目の夏に向かって、新緑の季節です。」

5月8日(木)「第74回はたらく消防の写生会」の作品創作のために、昨年に引き続き近隣の消防署である北多摩西部消防署から、消防車が緑が丘校舎に出動してきてくれました。夜間の災害現場において照明活動を行うほか、消防機器等に電力を供給する照明電源車と、消火活動を行うポンプ車2台など、毎年、珍しい消防車を派遣してくださる北多摩西部消防署の皆様に感謝申し上げます。

緊急出動があった場合には、本校から現場への出動もある。という状況でしたが、普段はなかなか見ることのできない照明電源車の照明を大きく伸ばした姿を、子供たちはじっくりと観察して画用紙に写生することができました。緊張感あふれる消防士さんたちの勇ましい姿を、子供たちは真剣に見つめていました。消防車と消防士さんにくぎ付けで、一緒に写真撮影もしていただきました。さて、子供たちの写生画の方は納得のいく作品として描けたのか…。画板に筆記用具、クレヨンに絵具等を駐車場に運び出して、バス駐車場に並んで作品作りを行っていました。皆で空を見上げたとても良いお天気の日でした。



【第1回学校運営連絡協議会】



5月30日(金)第1回学校運営連絡協議会を開催いたしました。今年度は評価委員長に墨田区教育センター特別支援教育アドバイザー・前東京都立墨田特別支援学校校長朝日滋也氏をお迎えし、本校舎のお隣である東京小児療育病院長の佐々木征行氏と本校PTA会長の小谷野容子氏に評価委員をお願いいたしました。第一回の学校運営連絡協議会では、各学部の授業の様子を御覧いただき、パソコンルームで視線入力装置、iPadのスイッチ操作による肢体不自由な特化した内容の学習方策について、本校の谷本副校長と山下指導教諭から委員の皆様に御説明し、体験をしていただきました。



私は校長として、特別支援学校の課題の一つである交流教育を、1年のスパンでの取り組みではなく、もっと長期間で考えています。地域で暮らしていく子供たちが大人になったときに、「村山特別支援学校と一緒に活動したことがあるよ」ということを、次の代の子供たちに伝えてもらえるような関係性を育てていけるものとしていきたい。

そのため今年度は、長年、全ての学年で交流を続けてきて、コロナ禍でもビデオレターや作品交流を行ってきた、武蔵村山市立雷塚小学校の校長赤坂弘樹氏、その雷塚小学校の卒業生が、進学する武蔵村山市立第三中学校の校長飯星健司氏に協議委員として新たに加わっていただきました。せっかくの交流で培った気持ちや行動を、小学校で途切れさせることなく、雷塚小学校から第三中学校への進学者に交流の種をまいてもらえるように、学校からも出前授業等を計画して村山特別支援学校を外部に発信していきます。

【学校案内が令和7年度バージョンになりました】

昨年度、学校案内の冊子を一新し、都立村山特別支援学校近隣に咲いている「たんぽぽ」のように、たくましく生きていく力をイメージした学校案内としましたが、今年度はベースの色合いを緑色から桜色に変更して、温かいイメージとして作成しました。時間割も変わりましたので、また、学習の様子の子供・生徒の写真のメンバーも変わっています。地域連携、交流教育のためにもたくさんの方々に村山特別支援学校のことを知っていただき子供・生徒が地域と共に歩んでいけるよう発信してまいります。落ち着いた中にも力強さを秘めた、村山特別支援



学校らしさ「村山 STYLE」を就学相談や学校公開にお越しいただく皆様にも御理解いただき、村山特別支援学校で、ぜひ学びたいと思ってもらえるように教職員一同頑張ります。

【全校研修会について…教職員の研究に関すること】

深い学びにつながるように、児童・生徒の授業を作りこめるか？
というのは授業づくりを行う我々教員の醍醐味です。児童・生徒が各教科等の「見方・考え方」を働かせることができるように工夫をしている授業実践、授業改善を大きなテーマとして、今年度は令和8年2月5日（木）に全国公開研究会を開催します。その授業づくりの手立てとしてICTの活用を取り上げ、今年度は、①「学習者用デジタル教材の開発」②「準ずる教育課程におけるデジタルを活用した他校との共同学習」③「学習者用デジタル教科書・デジタル教材を用いた指導方法の改善」の3つの東京都の研究指定を受け、深い学びへの取り組みを丁寧に行ってまいります。

5月28日（水）は、NPO法人地域サポート研究所学習支援員・椎名久乃氏、関原彩子氏に実際の本校の授業観察を行っていただいた後に「☆本（文部科学省著作教科書）を活用した算数・数学、生活の授業実践」「音楽の共通事項に基づいた授業づくり」という実践的なお話をうかがいました。前東京学芸大学教職大学院特命教授三室秀雄氏にも授業観察をお願いし、研究の方向性について御指導いただきました。今年度は他にも、研究を段階的に進め、肢体不自由教育の専門家を招聘し、児童・生徒の実態把握からの課題設定、付けたい力、深い学びにつながる教材選定、授業づくりの実践へと進めてまいります。



【第26回東京都障害者スポーツ大会 ボッチャ・陸上大会】

5月24日（土）駒沢オリンピック公園総合運動場屋内球技場にて、第26回東京都障害者スポーツ大会個人競技（身体部門）ボッチャ競技が行われました。チーム村山からは7名のエントリー。個人戦ですから誰も助けてはくれません。自分の力で戦うことの難しさと面白さを体験してきてくれました。また、5月31日（土）には同じく駒沢オリンピック公園総合運動場陸上競技場・補助競技場にて陸上競技が開催されました。前日が本降りの雨で、当日も朝から一日雨模様でした。「駒沢オリンピック公園総合運動場」が一体どこにあるかという、世田谷区駒沢公園 東急田園都市線駒沢大学駅から徒歩10分はかかります。多摩地区が通学区域の「チーム村山」が2週にわたって競技に参加をするということがどれだけ大変なことかと思えます。体調管理、また送迎をし、応援をしてくださった保護者の皆様に感謝申し上げます。雨の中、競技場の観覧席を一周するだけで傘をさしていても、びしょびしょになる風の強い大会になりました。「雨ニモ負ケズ」自分の競技が終わっても、友達の競技を観戦して応援の声を上げる。今年の部活動ではそうした関係性も強まってきているようです。

この大会は第24回全国障害者スポーツ大会派遣選手選考会を兼ねている大会で、全国大会は今年、滋賀県で10月23日から28日まで行われます。東京都大会で大会記録に匹敵する記録を出せば、全国大会も夢ではありません。何を隠そう私は、担任していた生徒が陸上100mとソフトボール投で全国大会選手に選ばれたことがきっかけで、2002年第2回全国障害者スポーツ大会東京都選手団役員・陸上コーチとして高知大会に参加いたしました。学校だよりでも何度か申し上げていますが、私は体育ではなく国語の教員です。肢体不自由の競技に出場する女子選手たちの陸上コーチとして1週間、帯同したのはこの年だけですが、その後も、担任する生徒が何人か全国大会出場となり現地に応援に出掛けました。つまり、個人競技は自分の記録との戦いですから、自分自身の記録を更新していくことで、全国大会の派遣選手への道は不可能ではない。ということなのです。もちろん可能にする努力は、誰にでも必要なので、その競技が好きであること、自分でこの競技を続けたいという思いをもつこと、そして、励まし合える仲間を大切にすること、応援してくれる家族に感謝すること、を忘れずに切磋琢磨（せっさたくま）して、初めて手に入れられるものであると思っています。体も心も頭も学校生活でいっぱい力を付けてほしいと願います。

屋内競技場



総合運動場

